



地球環境への貢献

豊かな地球が育まれる サステナブルでグリーンな未来を



重点活動項目

社会が
低炭素化している
未来

P.41

資源が
循環している
未来

P.47

自然と
共生している
未来

P.49

ICT企業における地球環境保護活動の期待は大きいと考えられます。私たちは、低炭素社会の実現、循環型社会の推進、生物多様性の保全という3つの領域を重視した「グリーンICTビジョン2020」を掲げ、多面的な取り組みを進めてきましたが、2016年度、その成果を踏まえて強化・刷新。新たなビジョンとして「環境宣言」、「環境目標2030」を設定しました。

活動を積極的に推進するためには、環境マネジメント体制の整備・強化が重要です。私たちは、NTTコミュニケーションズグループとして継続的にグループ全体でマネジメント体制を強化し、電力削減や効率化、物品の調達から運用、廃棄に至るまで、すべてのプロセスにおいて地球環境保護に積極的に取り組みます。

本業の事業活動を通じて、環境にやさしい社会の実現に貢献し、健やかな地球を次世代に継承することに力を注ぎます。

重点活動項目

- ◆ 社会が低炭素化している未来
- ◆ 資源が循環している未来
- ◆ 自然と共生している未来

見据える
SDGs





NTT Communications Corporation
CSR Report 2020

詳細版
CONTENTS
企業理念
トップコミットメント
企業情報
NTTコミュニケーションズのCSR
 社会への貢献
 地球環境への貢献
2019年度の活動実績および2020年度目標 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止
 人材の尊重
 経営統治の継続的強化

2019年度の活動実績および2020年度目標

CSR指標に即した活動の成果

2019年度は、「社会が低炭素化している未来」「資源が循環している未来」「自然と共生している未来」の柱に即し、すべての事業活動に伴う環境負荷の低減を図りました。

特に、電力消費量の削減施策の実施ビルを拡大し、CO₂排出量の低減に貢献、働き方改革として、リモートワークやペーパーレス会議の推進、3Rの推進により、廃棄物最終処分率の改善に努めました。また、第4回生物多様性フォトコンテストの開催など、グループ横断的に成果を収めました。

2020年度は、継続して「電力消費量の削減、廃棄物リサイクルの推進、生態系の保全活動」などを主眼に各種施策を展開し、自社だけでなく、社会全体の環境負荷低減を図ります。

◆ 2019年度の活動実績および2020年度目標

取り組み施策	中期目標 (5年後になりたい姿)	2019年度				2020年度目標	活動範囲 (バウンダリー)	
		目標	具体的な取り組み状況	定量的な結果	評価		組織内	組織外

重点活動項目 | 社会が低炭素化している未来 関連するSDGs ▶ 7 13

事業の低炭素化	通信事業(データセンター含む)の通信量当たりの電力効率を、2013年度比で10倍以上(2030年度目標)	2030年に、通信事業(データセンター含む)の通信量当たりの電力効率を、2013年度比で10倍以上(2019年度目標：3.8倍) ● さらなる電力使用量の削減に向けて以下のエネルギーマネジメント施策を推進 - 負荷装置の設備縮減と余剰空調停止の促進 - Dash Boardによる空調効率と電力・空調設備状況の「見える化」運用 - 「見える化」を活用した空調気流改善、設定緩和の推進 - DCビルへの空調制御システム(DASH)導入 ● CO ₂ 排出量：24.0万t-CO ₂ (新集計方式)	● 通信設備の吸排気方向の整合 ● 温度センサー感知による気流カイゼン ● 室内温度の適正化 ● 空調制御の実施 ● 自動空調制御システムの導入拡大	2019年度実績 ● 電力効率化：4.1倍(2013年度比) ● CO ₂ 排出量(自責)：23.5万t-CO ₂ (排出係数0.462kg-CO ₂ /kWh) - 通信設備：21.9万t-CO ₂ - オフィス：1.7万t-CO ₂	★★★	● 2030年に、通信事業(データセンター含む)の通信量当たりの電力効率を2013年度比で10倍以上(2020年度目標：4.5倍) ● CO ₂ 排出量(自責)：23.3万t-CO ₂ (排出係数0.454kg-CO ₂ /kWh) - 通信設備：21.7万t-CO ₂ - オフィス：1.6万t-CO ₂	●
製品・サービスを通じた社会の低炭素化	NTT Comグループによる社会のCO ₂ 排出の削減貢献量を、NTT Comグループ自身の排出量の10倍以上(2030年度目標)	2030年に、NTT Comグループによる社会のCO ₂ 排出の削減貢献量を、NTT Comグループ自身の排出量の10倍以上とするため、「ソリューション環境ラベル」を拡大(2019年度目標：15.9倍)	社会のCO ₂ 削減に貢献できる「ソリューション環境ラベル」認定サービスを維持し、当該サービスの販売を推進	2019年度実績：16.5倍	★★★	2030年に、NTT Comグループによる社会のCO ₂ 排出の削減貢献量を、NTT Comグループ自身の排出量の10倍以上(2020年度目標：15.3倍)	● ●



NTT Communications Corporation
CSR Report 2020

詳細版
CONTENTS
企業理念
トップコミットメント
企業情報
NTTコミュニケーションズのCSR
社会への貢献
地球環境への貢献
2019年度の活動実績および2020年度目標 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止
人材の尊重
経営統治の継続的強化

取り組み施策	中期目標 (5年後になりたい姿)	2019年度				2020年度目標	活動範囲 (バウンダリー)	
		目標	具体的な取り組み状況	定量的な結果	評価		組織内	組織外
重点活動項目 資源が循環している未来 関連するSDGs▶ 12								
環境負荷の低い事業モデルの実現	環境負荷に留意した事業モデルの実施	● 環境負荷に留意した事業モデルの構築・維持 - 電力削減施策の実施 - 省エネ設備の導入 - 有害物質の適正な管理	● 省エネ設備の導入 ● (直接・間接)外気空調の導入 ● 気流制御導入ビルの拡大 ● PCB・アスベストの有害物質の適正な管理	—	★★★	● 環境負荷に留意した事業モデルの構築・維持 - 電力削減施策の実施 - 省エネ設備の導入 - 有害物質の適正な管理	●	
事業における3Rの徹底	事業活動に関わるすべての資源について、使用量の削減(Reduce)、再使用(Reuse)、再資源化(Recycle)の「3R」を徹底 - 廃棄物の最終処分率改善：最終処分率1.5%以下(2030年度目標)	● 事業活動に関わるすべての資源について、使用量の削減(Reduce)、再使用(Reuse)、再資源化(Recycle)の「3R」の推進 - 廃棄物の最終処分率改善：最終処分率2.0%以下 ● 複合機の利用状況データをもとに、組織単位での取り組みの強化。ICT機器を活用したペーパーレスなワークスタイルの推進	● 「3R」のさらなる推進 ● 廃棄物処理フロー、処理方法の確認、サーマルリサイクルの推進による最終処分率改善施策を実施 ● 複合機の利用状況データをもとに、ペーパーレスなワークスタイルを推進	廃棄物の最終処分率：2.1%	★★	● 事業活動に関わるすべての資源について、使用量の削減(Reduce)、再使用(Reuse)、再資源化(Recycle)の「3R」の推進 - 廃棄物の最終処分率改善：最終処分率2.0%以下 - プラスチックの利用削減、循環利用の推進 ● ICT機器を活用したペーパーレスなワークスタイルの推進	●	
重点活動項目 自然と共生している未来 関連するSDGs▶ 14 15								
生物多様性に配慮した設備	● NTTグリーンビルディングの考え方にもとづいた設備構築・維持・改修 ● 生物多様性の保全に関する行動指針の遵守	● NTTグリーンビルディングの考え方にもとづいた設備構築・維持・改修 ● 生物多様性の保全に関する行動指針の遵守	● NTTグリーンビルディングの考え方にもとづいた設備維持 ● 生物多様性の保全に関する行動指針の遵守 ● アカハラダカの渡りの観察場所の提供	—	★★★	● NTTグリーンビルディングの考え方にもとづいた設備構築・維持・改修 ● 生物多様性の保全に関する行動指針の遵守	●	
ICTを活用した生物多様性への貢献	ICTを活用した生物多様性への貢献・対応	ICTを活用した生物多様性への貢献・対応	● みまわり楽太郎の拡大(全国50自治体へ拡大) ● 緑のgooを通じた情報発信、啓発活動	—	★★★	ICTを活用した生物多様性への貢献・対応	●	●



NTT Communications Corporation
CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR



社会への貢献



地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標

基本理念とビジョン

環境マネジメント

社会が低炭素化している未来

資源が循環している未来

自然と共生している未来

環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

基本理念とビジョン

私たちの環境保護活動は、NTTグループの定める「地球環境憲章」の理念を重んじつつ、それを私たちの事業特性に活かした「環境宣言」として具体化。継続的な取り組み目標と施策を設定しています。

NTTコミュニケーションズグループ 地球環境憲章

NTTグループは、「NTTグループ地球環境憲章」を制定し、グループを挙げてグローバルな視点から環境保護を考え、活動を進めています。この理念ならびに方針を踏まえて、NTTコミュニケーションズグループにおいても、「NTTコミュニケーションズグループ地球環境憲章」を制定し、あらゆる環境保護活動の指針としてグループ全社員への浸透を図っています。



> 「NTTコミュニケーションズグループ地球環境憲章」は、こちらをご覧ください
<https://www.ntt.com/about-us/csr/eco/details.html>

環境宣言および環境目標2030設定

私たちは、環境活動推進の指針として、地球環境の未来のため、私たちがどのような企業でありたいかを、「NTTコミュニケーションズグループ 環境宣言」としてまとめ、環境宣言で掲げた未来を実現するための重点課題として、「環境目標2030」を設定しています。

私たちNTTコミュニケーションズグループは、時代を先駆ける技術やサービスの提供を通じて、人と地球が調和する未来の実現に向け、世界中の全社員が一丸となり環境活動に取り組んでいきます。

NTTコミュニケーションズグループ 環境宣言

人と地球が調和する未来のためグローバル環境経営の最先端へ

時代を先駆ける技術やサービスの提供を通じて、
3つのテーマに取り組んでいきます。



社会が低炭素化している未来
世界が目指すCO₂排出量の大幅削減と、気候変動リスクの適応に貢献します。



資源が循環している未来
資源の有効利用に貢献します。



自然と共生している未来
生態系の保全に貢献します。



NTT Communications Corporation
CSR Report 2020

詳細版
CONTENTS
企業理念
トップコミットメント
企業情報
NTTコミュニケーションズのCSR
 社会への貢献
 地球環境への貢献
2019年度の活動実績および2020年度目標 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止
 人材の尊重
 経営統治の継続的強化

環境目標2030

「環境目標2030」では環境宣言で掲げた未来を実現するための3つのテーマについて、それぞれ取り組み目標を設定しました。

目指す未来	取り組み目標	
 社会が低炭素化している未来	社会からのCO ₂ 排出削減貢献量	NTT Comグループによる社会のCO ₂ 排出の削減貢献量を、NTT Comグループ自身の排出量の10倍以上とします
	通信事業の電力効率	通信事業(データセンター含む)の通信量当たりの電力効率を、2013年度比で10倍以上とします
	気候変動適応への貢献	気候変動への適応に貢献するため、あらゆる活動を通じた取り組みを積極的に推進します。また、ステークホルダーの皆さまと協働していきます
 資源が循環している未来	廃棄物の最終処分率	NTT Comグループが排出する廃棄物の最終処分率を1.5%以下とします
 自然と共生している未来	生態系保全の取り組み	生態系を保全するため、あらゆる活動を通じた取り組みを積極的に推進します。また、ステークホルダーの皆さまとも協働していきます

NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR

 社会への貢献

 地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン

環境マネジメント

社会が低炭素化している未来
資源が循環している未来
自然と共生している未来
環境汚染の防止

 人材の尊重

 経営統治の継続的強化

環境マネジメント

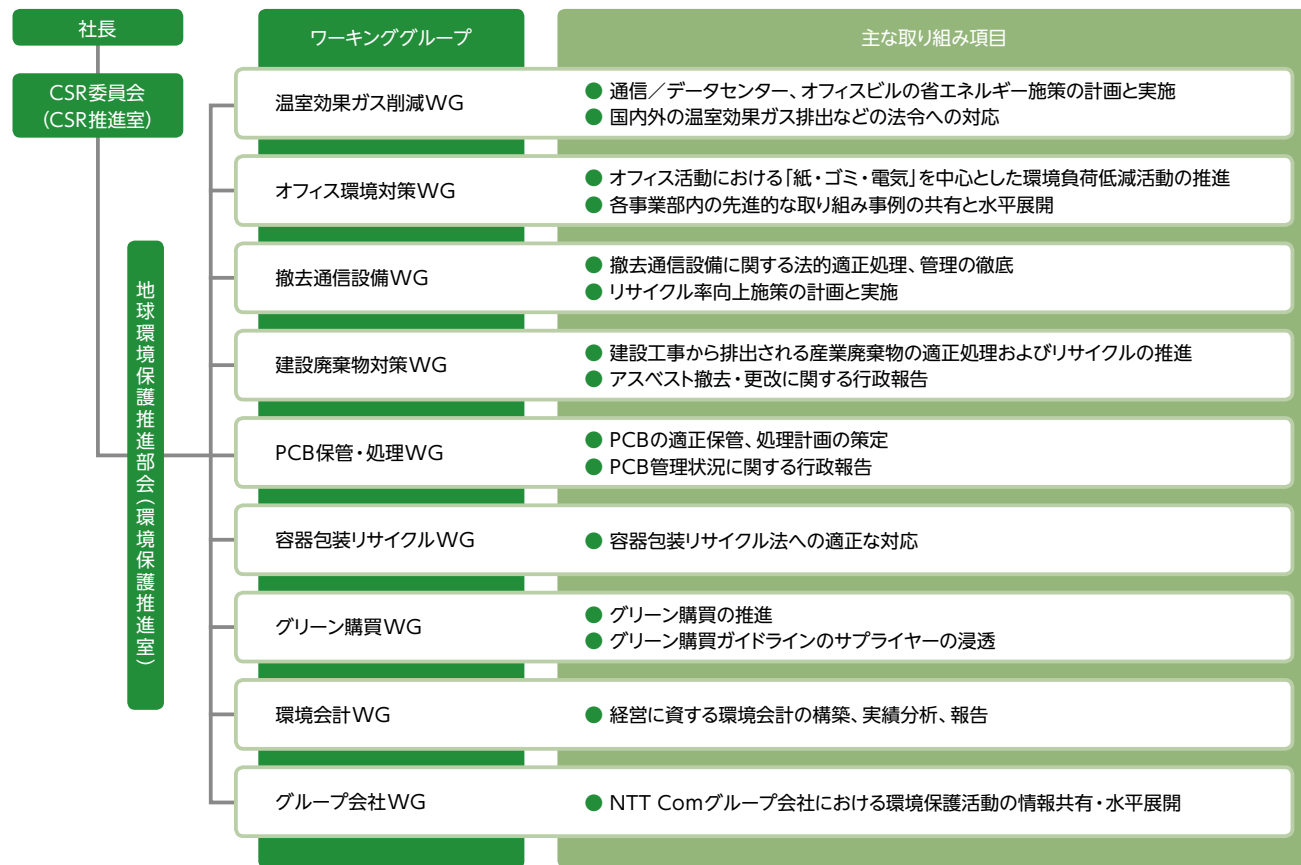
環境負荷削減に向けた推進体制

私たちは、環境保護活動を継続的に推進していくため、課題別のワーキンググループ (WG) を編成し、グループ会社一丸となって環境問題に取り組んでいます。具体的には、NTT Comグループで地球環境保護推進部会を年1回開催し、温室効果ガスの削減や廃棄物量の削減など多岐にわたる領域の全体計画を策定するとともに、活動成果などの情報共有や水平展開の促進を図っています。

特に2019年度では、再生可能エネルギーの導入拡大、PCBの計画的な廃棄処理、適正な廃棄物処理にも力をいれています。

2020年度は新たな環境目標に合わせ環境マネジメント体制の見直しを図り、グループ一丸となり、環境保護活動を推進し、環境目標の達成に向けた取り組みを促進していきたいと考えています。

◆ 環境保護の推進体制図



(2020年3月31日現在)

NTT Communications Corporation
CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR

社会への貢献

地球環境への貢献

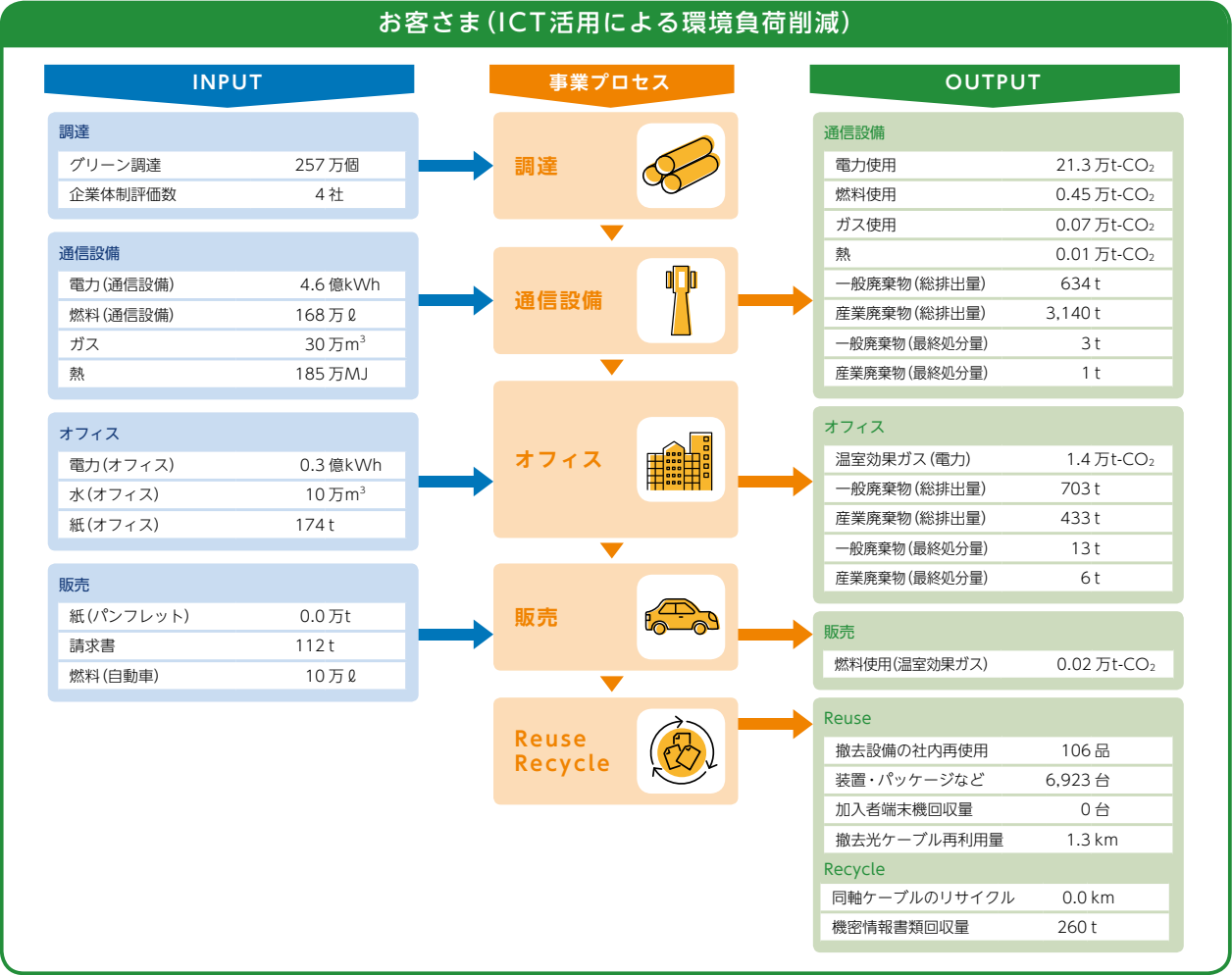
2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン
環境マネジメント
社会が低炭素化している未来
資源が循環している未来
自然と共生している未来
環境汚染の防止

人材の尊重

経営統治の継続的強化

事業活動に伴う環境負荷

2019年度のマテリアルフロー



(集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社)

Scope3排出量の算定

算定にあたっては、環境省や他省庁が調査した排出原単位データベースなどを参照し、対象カテゴリ範囲を拡大し、15カテゴリの中で関連する11カテゴリの算定を行っています。

◆ Scope3のカテゴリ別排出量

カテゴリ	構成比率 (%)	排出量 (t-CO ₂)
カテゴリ1 (購入した製品・サービス)	7.9	270,934
カテゴリ2 (資本財)	15.0	517,353
カテゴリ3 (Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動)	1.1	37,823
カテゴリ4 (輸送、配送 (上流))	0.1	2,584
カテゴリ5 (事業から出る廃棄物)	0.0	303
カテゴリ6 (出張)	0.2	7,673
カテゴリ7 (雇用者の通勤)	0.2	6,502
カテゴリ8 (リース資産 (上流))	—	対象外
カテゴリ9 (輸送、配送 (下流))	—	対象外
カテゴリ10 (販売した製品の加工)	—	対象外
カテゴリ11 (販売した製品の使用)	67.0	2,309,263
カテゴリ12 (販売した製品の廃棄)	2.5	86,201
カテゴリ13 (リース資産 (下流))	5.9	203,387
カテゴリ14 (フランチャイズ)	0.1	4,627
カテゴリ15 (投資)	—	対象外
合計	100.0	3,446,650

NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS
企業理念
トップコミットメント
企業情報
NTTコミュニケーションズのCSR
 社会への貢献
 地球環境への貢献
2019年度の活動実績および2020年度目標 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止
 人材の尊重
 経営統治の継続的強化

2019年度の環境会計

NTTコミュニケーションズグループは、環境省の「環境会計ガイドライン2005年版」およびNTTグループ「環境会計ガイドライン」にもとづいて、環境保全コスト（事業活動に応じた分類）および環境保全に伴う経済効果（実質的效果）を集計しています。

2019年度の環境保全コストは、投資総額が約9.2億円、費用総額が約13.2億円、総額は約22.5億円であり、主に地球環境保全に関連する投資金額の増加により対前年度約4.5億円の増加となりました。

一方、2019年度の環境保全に伴う経済効果は15.6億円で、主に売却（ケーブル・金くずなど）による収益効果の減少により対前年度約1.8億円の減少となりました。

◆ 環境保全コスト（事業活動に応じた分類）（単位：百万円）

分類	主な取り組みの内容	投資額		費用額	
		2018年度	2019年度	2018年度	2019年度
(1) 事業エリア内コスト		593	850	1,064	1,206
内訳	公害防止コスト	142	231	80	164
	地球環境保全コスト	450	618	577	526
	資源循環コスト	0	0	406	515
(2) 上・下コスト	通信機器などの回収・リサイクル・再利用対策	14	73	52	47
(3) 管理活動コスト	環境保全管理活動	0	0	63	70
(4) 研究開発コスト	NTTグループ環境関連研究開発費の負担分	0	0	10	1
(5) 社会活動コスト	ボランティア参加支援費用	0	0	0	0
(6) 環境損傷対応コスト		0	0	0	0
合計		607	924	1,191	1,326

◆ 環境保全に伴う経済効果（実質的效果）（単位：百万円）

分類	主な取り組みの内容	2018年度	2019年度
収益	売却（ケーブル・金くずなど）による収益効果	433	239
費用削減	省エネ施策による電力料金削減額	517	391
	撤去通信設備の再利用による購入費用の低減	380	400
	マイページによる郵送費および紙資源削減額	422	533
	その他	0	0
合計		1,753	1,565

集計対象期間：毎年4月1日～3月31日
集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ15社
集計および開示の方法：環境省の「環境会計ガイドライン2005年版」およびNTTグループ「環境会計ガイドライン」にもとづいて集計しています。
なお、費用に人件費を含みますが、減価償却費は含んでいません。

NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版	
CONTENTS	
企業理念	
トップコミットメント	
企業情報	
NTTコミュニケーションズのCSR	
	社会への貢献
	地球環境への貢献
2019年度の活動実績および2020年度目標 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止	
	人材の尊重
	経営統治の継続的強化

環境マネジメント体制

ISO14001 認証取得

2020年3月31日現在、2社でISO14001の認証を取得しています。認証を取得した部・社では、事業活動に伴う環境負荷の着実な低減に向けて環境マネジメントの適切な運用とその継続的改善を行うため、社外環境コンサルタント機関と業務委託契約し内部監査を毎年1回実施するとともに、外部審査機関による定期的な審査ならびに更新審査を実施し、課題の抽出とその速やかな対処を行っています。紙（事務用紙）使用量・電力使用量の削減、廃棄物のリサイクル推進を中心に取り組んでいるほか、環境にやさしい社会実現に向けた施策を進めています。

◆ ISO14001 認証取得会社

ISO14001 認証取得会社		取得年月
NTTコミュニケーションズ株式会社	プロキュアメント&ビルギング部 調達推進部門・戦略部門	1999年10月
	ソリューションサービス部	2004年 3月
株式会社NTTPCコミュニケーションズ		2003年11月

2020年3月31日現在

環境監査、環境調査について

NTTコミュニケーションズグループでは、地球環境憲章のもと、CSR委員会の下部組織である地球環境保護推進部会において、環境保護活動を推進する9のWGが担当する各々の活動内容のPDCA報告などを年1回実施し、課題の共有や有効事例の展開などの働きかけを行い、グループ全体の環境マネジメントを推進しています。

環境法令・規制の遵守

私たちは、NTTグループ各社と連携を取りながら、汚染対策を目的とした環境法令や排出基準、PRTR法*などのあらゆる法令などを関連部署に周知徹底するとともに、自主的に社内ガイドラインを設ける一方、コンプライアンス教育を充実させ、法の遵守はもとより適切なリスク管理に力を注いでいます。なお、2019年度は、環境関連の事故・違反・罰金・苦情など、これらに関する訴訟および法令違反はありませんでした。

今後も、環境汚染の防止と法令遵守に全社的に取り組んでいきます。

* PRTR法：特定化学物質の環境への排出量の把握など、管理の改善の促進に関する法律の略称。

グリーン調達の推進

NTTコミュニケーションズでは、1999年に「グリーン購買ガイドライン」を制定しました。本ガイドラインを2010年にNTTグループで定める「省エネ性能ガイドライン」に準拠させ、私たちが課題と考えるICT自身の省エネ化の観点を追加すると同時に「グリーン調達ガイドライン」へ名称変更しました。

NTTコミュニケーションズでは、本ガイドラインの適用により、お取引させていただくサプライヤーの選定条件に自身の環境保全への取り組みや調達品における環境保全の要素を加えました。

NTTコミュニケーションズはグリーン調達の取り組みを通じて、サプライヤーの皆さまとともに環境保全活動のレベルアップに取り組み、さらなる社会貢献の実現に寄与していきたいと考えます。

◆ グリーン調達の状況（単位：万個）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
グリーン調達物品量 （事務用品以外）	105	90	154	204	257
グリーン調達物品量 （事務用品）	20	20	22	21	24



NTT Communications Corporation
CSR Report 2020

詳細版
CONTENTS
企業理念
トップコミットメント
企業情報
NTTコミュニケーションズのCSR
 社会への貢献
 地球環境への貢献
2019年度の活動実績および2020年度目標 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止
 人材の尊重
 経営統治の継続的強化

＞ 環境教育への取り組み

私たちは、環境に対する意識向上を目的として、すべての社員を対象に、環境教育を実施しています。また、CSR活動の一環として、環境啓発活動を積極的に実施しており、その対象も社員にとどまらず、社員の家族やビジネスパートナーへと範囲を広げています。

2019年度は、全従業員を対象とした研修で、SDGsやESG投資、グローバルリスクといった国際社会の動向についても学習しました。そのほか、オフィスビル周辺や海岸での清掃活動、エコキャップの収集推進、生物多様性フォトコンテストなどの取り組みを通じて、環境啓発を実施しました。また、NTTコム ソリューションズ、NTTコム マーケティングでは里山保全活動を実施し、社員の自然環境保全活動への理解促進を図りました。



NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR



社会への貢献



地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標

基本理念とビジョン

環境マネジメント

社会が低炭素化している未来

資源が循環している未来

自然と共生している未来

環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

重点活動
項目

社会が低炭素化している未来

私たちのアプローチ

CO₂排出量の削減には、自社設備の省電力・高効率化をはじめ、低炭素性に優れたサービスの提供や環境貢献活動など、多彩なアプローチで取り組みます。自社においては、「通信設備」「オフィス」の2つの切り口から目標を設定しており、社員一丸となったCO₂削減に取り組んでいます。特に、事業活動におけるCO₂総排出量の90%以上は電力の消費によるもので、電気通信設備の省電力・高効率化の実現は大きな効果を見込むことができるため、先進技術の導入を業界に先駆けて行うなど力を入れています。

基本的な考え方

ICTの発展や普及によって豊かな社会や快適な暮らしができるようになりました。その一方で、ICT関連機器の消費電力の増加は、地球環境に大きな負荷をかけています。SDGsでも目標13として「気候変動に具体的な対策を」が設定されており、その主な要因となるCO₂排出量の削減は、人類にとどまらない地球上の生物の繁栄に関わる喫緊の課題です。私たちは、低炭素化社会の実現に貢献するため、「環境宣言」のテーマの1つに「社会が低炭素化している未来」を設定しました。これを具現化するため、具体的な効果を強く意識した活動を行うとともに、事業のサプライチェーンの広がりを踏まえたグローバルな視点からの取り組みも強化していきます。

2019年度の主な成果と今後

2019年度も引き続き、通信事業における通信量当たりの電力効率の向上を図りました。電力効率を上げるため、通信設備の吸排気方向の整合や温度センサー感知による気流改善、室内温度の適正化、空調制御、不要電源OFFの徹底などを継続的に実施しました。この結果、電力効率は4.1倍となり、目標としていた4.0倍を上回ることができました。また、一定の環境負荷低減効果が認められる自社のソリューションに対してNTTグループで定めた「ソリューション環境ラベル」を付与し、効果を見える化したうえで販売しています。これにより、当社グループによる社会のCO₂排出の削減貢献量が自身の排出量の16.5倍となり、目標であった15.9倍を上回りました。これらの取り組みを今後も、さらに強化していき低炭素社会の実現に貢献していきます。

2020年度は、EVや再生可能エネルギーの導入拡大を加速させるとともに、積極的な環境目標への見直しを図り、さらなるCO₂削減に取り組んでいきます。

NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR

社会への貢献

地球環境への貢献

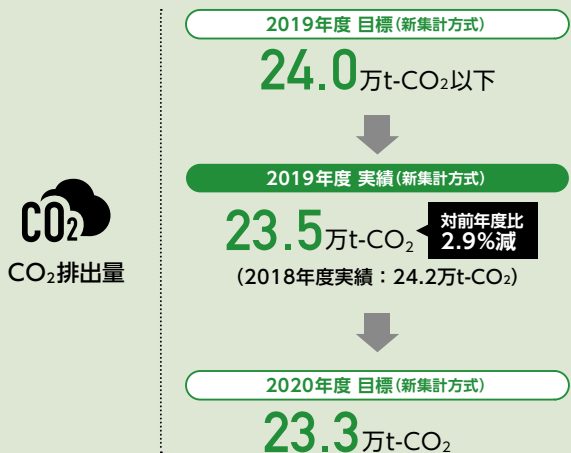
2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン
環境マネジメント
社会が低炭素化している未来
資源が循環している未来
自然と共生している未来
環境汚染の防止

人材の尊重

経営統治の継続的強化

温室効果ガスの削減

2019年度の実績および2020年度の計画



2017年度まで、データセンター（DC）においては、自責分^{※1}と他責分^{※2}の合計を自社排出分として公表していました（旧集計方式：右記の事業活動に伴うCO₂排出量、点線のグラフ）が、他責分は自社において削減取り組みや取り組み評価が困難であることから、2018年度から自社の削減対応範囲である自責分を管理値とする新集計方式に改訂しました（新集計方式：右記の事業活動に

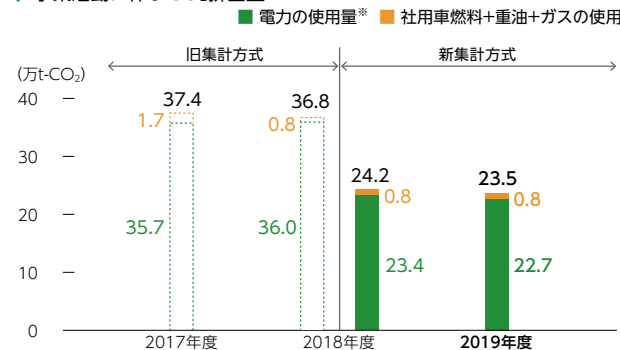
伴うCO₂排出量、実線のグラフ）。新集計方式では2019年度のNTTコミュニケーションズグループの事業活動に伴うCO₂排出量^{※3}は目標を達成しました。排出係数の高い電力会社から、排出係数の低い電力会社に切り替えたことが主な要因です。また、CO₂排出売上高原単位^{※4}は、0.30t-CO₂/百万円となりました。

2020年度は、NTTコミュニケーションズグループ一丸となって継続した省エネ活動、研究開発（R&D）技術や省エネルギーなどの新規施策により、CO₂排出量を対前年度比1%減にとどめる目標を設定しました。引き続きDCやクラウドサービスを社会に提供することで、従来お客さま側に設置・運用されていたサーバー、空調、UPS、照明などをDCに集約し、社会の消費電力の効率化を図っていきます。

私たちは再生可能エネルギーの積極的な導入を図り、2030年には30%以上の導入を目指してさらなるCO₂削減に取り組んでいきます。

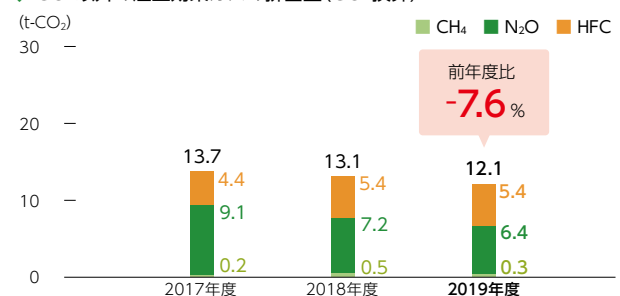
※1 自責分：自社で使用した燃料や電力
 ※2 他責分：他事業者（通信事業者、データセンター事業者等）が当社施設内で使用した燃料および電力
 ※3 CO₂排出量は、電力会社ごとのCO₂排出係数を使用して算定
 ※4 売上高は、2019年7月1日の会社分割に伴い、2019年7月から2020年3月の数値（7,946億円）で算定

◆ 事業活動に伴うCO₂排出量



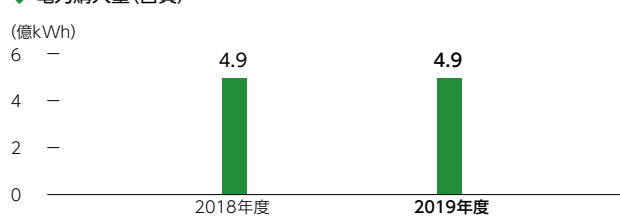
（集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社）
 ※ CO₂排出量は、電力会社ごとのCO₂排出係数を使用して算定。

◆ CO₂以外の温室効果ガスの排出量（CO₂換算）



（集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社）

◆ 電力購入量（自責）[※]



（集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社）
 ※ 2018年度から新集計方式（他事業者分を除いた値のみを集計）による算定。

NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR

社会への貢献

地球環境への貢献

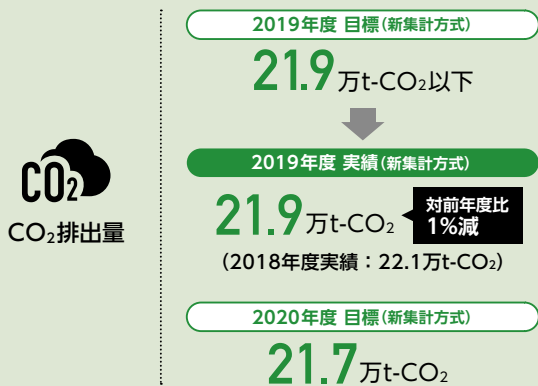
2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン
環境マネジメント
社会が低炭素化している未来
資源が循環している未来
自然と共生している未来
環境汚染の防止

人材の尊重

経営統治の継続的強化

通信設備における取り組み

2019年度の実績および2020年度の計画



2019年度のCO₂排出量は、機械室やサーバールームの電力状況の見える化による空調電力削減施策などの拡充・拡大が奏功しました。東京、大阪のデータセンター (DC) の販売需要の拡大やクラウドサーバーの増設があったものの、目標を達成しました。

2020年度はDCやクラウドサービスの販売が好調でCO₂排出量は増加傾向ですが、電力見える化を通じた継続した施策の拡大やR&D技術の活用、気流カイゼン、通信設備数の適性化により2019年度比1%減に目標を設定しています。

＞ 先進の低炭素化技術を導入した、最先端のデータセンターの建設

DCは、その性格上、運用するために一定量の電力を継続的に必要とします。私たちはICT企業として、DCの低炭素化に向け、先進の設備や技術の導入へと積極的に取り組んでいます。

例えば、新たに開設するDCにおいては、壁面吹き出し空調方式や建物外気温を冷却に利用した間接外気冷房システムなどにより、冷却効率の向上や空調消費電力削減などを実現しています。また、東京に建設した新DCにおいては、業界に先駆けて間接蒸発式空調システムの導入により、平均的な空調システムと比較し年間を通じたエネルギーを60%程度削減できる見込みです。

引き続き、先進の設備や技術の導入を推進し、DCの低炭素化を加速します。



平均的な
空調システムと比較

年間約 **60%**削減

＞ 通信ビルにおける、空調電力削減に向けた継続的な取り組み

これまでの空調電力削減に向けた取り組みとして、サーバールームの「温度状況が見える化」により冷やしすぎ箇所を検知し、自動的に「空調制御」を実施する「Smart DASH®」やラック列の間の通路を壁や屋根で覆い、IT装置への吸気 (低温) と排気 (高温) を物理的に

分離して効率的な空調環境を実現する「アイルキャッピング」を設置してきました。

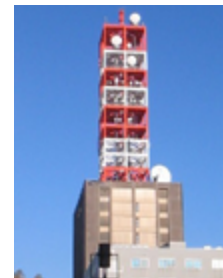
さらなる空調電力削減に向けてはICTを活用した温度・電力量の見える化から、ルームごとの空調効率 (PUE) を算出し徹底的な気流改善・温度緩和・空調停止により低効率ルームの改善を図る取り組みを継続して実施します。また、ICT装置について旧型装置から高効率型装置へのマイグレーションに伴い、旧型装置をタイムリーに停止することで、ICT消費電力削減およびこれに連動する空調電力削減に取り組んでいきます。

＞ 再生可能エネルギーを積極的に活用する太陽光発電システムの導入

NTTコミュニケーションズでは、2009年より東京都内の通信ビルやDCビルにおいて太陽光発電システムによる発電に取り組み、現在4基が稼働中です。

2020年4月には、札幌市中央区の大通ビルでNTTグループ初の再生可能エネルギー100%ビルを実現しました。今後は、さらなる導入拡大を目指していきます。

◆ NTTコム札幌大通4丁目ビル



太陽光発電システムによる2019年度の
発電実績

約 **34.5** 万kWh

NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR

社会への貢献

地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン

環境マネジメント

社会が低炭素化している未来

資源が循環している未来

自然と共生している未来

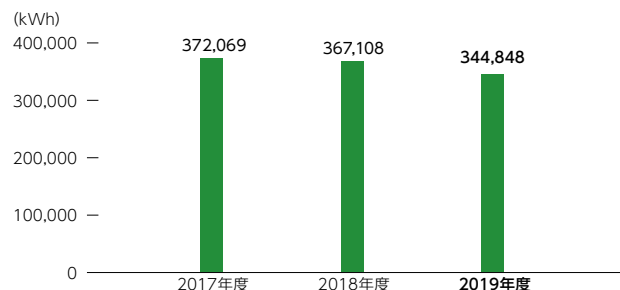
環境汚染の防止

人材の尊重

経営統治の継続的強化

地球環境への貢献 | 社会が低炭素化している未来

◆ データセンターでの太陽光パネルの総発電量



▶ 東京都へのカーボンオフセット※を通じた協力

NTTコミュニケーションズは「ゼロエミッション東京」の実現を目指す東京都の取り組みに協力するために、キャップアンドトレード制度で創出されたクレジットを寄付しました。2010年4月に施行した都の環境確保条例において、施行からこれまで、CO₂排出量削減義務の対象となる11の通信・データセンタービルにおいて空調温度抑制や気流カイゼンといった活動でCO₂排出量を抑制し、得られた10万t-CO₂分のクレジット(超過削減量)を都に提供し、感謝状をいただきました。

※ カーボンオフセット：自身が排出する温室効果ガスの量を把握し、削減する努力を行ったうえで、温室効果ガスの削減が困難な排出量について、クレジット購入などで排出量の一部を埋め合わせること。



オフィスにおける取り組み

2019年度の実績および2020年度の計画



CO₂排出量

2019年度 目標(新集計方式)

2.2万t-CO₂以下



2019年度 実績(新集計方式)

1.7万t-CO₂ 対前年度比 19%減
(2018年度実績：2.1万t-CO₂)

2020年度 目標(新集計方式)

1.6万t-CO₂

DCや通信ビルなどの通信設備は、継続的に一定量の電力使用が必要です。このため、オフィスにおける節電には思い切った施策が期待されます。

2019年度のCO₂排出量は、東日本大震災発生以降と比較し、無理のない範囲で省エネルギー施策を実施したことにより、新集計方式で目標を達成しました。2019年1月に本社を日比谷ビルからエネルギー効率の高い大手町プレイスに移転したことや、株式会社NTTぶららが株式会社NTTドコモに会社譲渡されたことなどにより、大幅に削減されました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応するため、テレワークを実施する従業員が増えたことや、省エネルギー設定の見直しやFAT端末の導入拡大などにより、働きやすい職場環境や業務効率性を意識した省エネも実施し、2019年度比3%減の1.6万t-CO₂以下にとどめることを目標に設定しました。

NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR

社会への貢献

地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン
環境マネジメント
社会が低炭素化している未来
資源が循環している未来
自然と共生している未来
環境汚染の防止

人材の尊重

経営統治の継続的強化

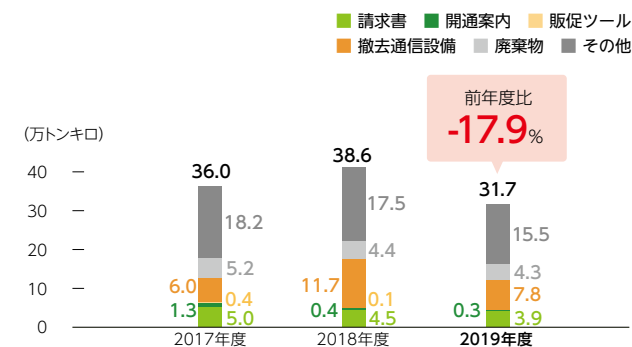
輸送・移動における取り組み

2019年度の実績および2020年度の計画

NTTコミュニケーションズは、請求書や販促ツール・オフィス廃棄物などの輸送量を毎年調査し、自主的な取り組みとして「輸送そのものの削減」「輸送量の削減」「輸送距離の削減」「物流の効率化」を推進しています。

2019年度は、販売ツールやマニュアル類の電子化、Web申し込みの拡大により紙量の削減を図り、輸送総量は31.7万トンキロでした。2020年度も引き続き、電子化やWeb申請の拡大を推進し、輸送量削減に努めます。

◆ 改正省エネ法における対象物品輸送量



(集計範囲：NTTコミュニケーションズ単体)

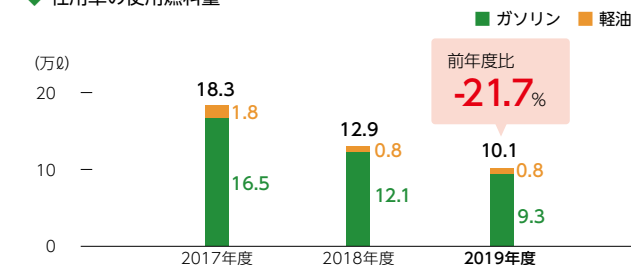
社用車の燃料使用量の削減

私たちは、公害問題の解決と低炭素社会の実現に貢献するべく、環境配慮型車両の導入指針を策定し、社用車の燃料使用量の削減にグループ全体で取り組んでいます。現在、営業用車両台数の見直しやエコドライブの浸透といった施策が着実に進んでいます。その結果、2019年度は、社用車のガソリン使用量は9.3万リットル、軽油使用量は0.8万リットルとなり、総量は対前年度比で2.8万リットル(21.7%)減少しました。

2018年10月に、NTTがEV100を宣言したことを受け、NTT Comグループでは、2030年度に一般車両100% EV化を目指します。2019年度の準備期間を経て、2020年度から本格的にEV導入を開始します。

私たちは、事業活動において、環境にやさしいエネルギーの利用に努めていきます。

◆ 社用車の使用燃料量



(集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社)

Web > 「EV100」については、こちらをご覧ください
<https://japan-clp.jp/climate/reoh>

電気推進船における使用エネルギー量の削減および大気汚染防止の取り組み

海底ケーブル敷設船「きずな」および「SUBARU」は電気推進システム*を採用しています。電気推進システムは海底ケーブルの工事形態や海気象の変化などによる負荷に応じて運転するエンジン台数を最適化するシステムです。エンジンの運転台数を制御することにより、A重油の使用量を抑制し、CO₂(二酸化炭素)、NO_x(窒素酸化物)、SO_x(硫黄酸化物)などの排出量を削減しています。

運航に際しては、「船舶エネルギー効率マネジメントプラン(SEEMP：Ship Energy Efficiency Management Plan)」にもとづくCO₂排出量削減のために最も効率的な運航方法(船速、海流、気象を考慮した最適な航路選定など)によって、燃料消費量の最適化に努めています。

また、船舶用LED照明の部分的な導入による省エネ化を進めています。

* 電気推進システム：エンジンにより発電機を回し、得られた電力でモーターを駆動させ、推進用プロペラとパワースターを回す方式の船。

◆ 海底ケーブル敷設船「きずな」 (総トン数8,598トン)



◆ 海底ケーブル敷設船「SUBARU」 (総トン数9,557トン)





NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR



社会への貢献



地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン
環境マネジメント
社会が低炭素化している未来
資源が循環している未来
自然と共生している未来
環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

製品・サービスを通じた社会の低炭素化

＞ ソリューション環境ラベルの付与

NTTグループでは、ICTソリューションサービスの環境負荷低減効果を客観的に評価し、CO₂排出量削減15%以上のものを環境にやさしいソリューションとして認定する、自己宣言型の「ソリューション環境ラベル」を付与しています。このような環境負荷低減効果のあるサービスを提供することにより、NTTグループ一丸となって社会全体の環境負荷低減を目指します。

この認定制度を利用して、NTTコミュニケーションズグループでは、2019年度に新たに「ソリューション環境ラベル」を取得したサービスはありませんが、これまでに累計10件を登録しています。今後もソリューションラベルの認定に取り組んでいきます。



＞ ソリューション環境ラベル制度の詳細は、こちらをご覧ください
<http://www.ntt.co.jp/kankyo/protect/label/index.html>

＞ エコICTマークの取得

私たちは、ICT分野におけるエコロジーガイドライン協議会*が定める「ICT分野におけるエコロジーガイドライン」に沿ってCO₂排出量削減の取り組みを自己評価・申請し、「エコICTマーク」を取得しています。

同協議会は電気通信事業者が省電力の観点から装置やデータセンターサービスの調達基準を示すことで、各事業者が適切にCO₂排出量削減に取り組むためのガイドラインを2020年2月(第8.2版)に公表しています。引き続き、本取り組みへの参画をグループ会社へと展開していきます。



※ ICT分野におけるエコロジーガイドライン協議会：2009年6月26日に、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人テレコムサービス協会、一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会および特定非営利活動法人ASP・SaaS・IoTクラウドコンソーシアムの5団体により発足した協議会。



＞ 電気通信事業者による「エコICTマーク」の詳細は、こちらをご覧ください

http://www.tca.or.jp/press_release/2010/0701_400.html

＞ 自己評価チェックリストの詳細は、こちらをご覧ください

<https://www.ntt.com/about-us/csr/eco/ecoict.html>

NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR

社会への貢献

地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン
環境マネジメント
社会が低炭素化している未来
資源が循環している未来
自然と共生している未来
環境汚染の防止

人材の尊重

経営統治の継続的強化

地球環境への貢献 | 資源が循環している未来

重点活動
項目

資源が循環している未来

私たちのアプローチ

SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」に象徴されるように、循環型社会の徹底・浸透は、人類共通の課題として重みを増し続けています。私たちは、循環型社会の実現に貢献するため、環境負荷の低いビジネスモデルの構築はもちろん、リデュースの推進、リユース・リサイクル率の向上にも日々取り組んでいます。具体的には、撤去通信設備、建設廃棄物、オフィス廃棄物の3つの分類で廃棄物の削減を図るとともに、事業のさまざまな局面でのリデュース・リユース・リサイクルを推進しています。

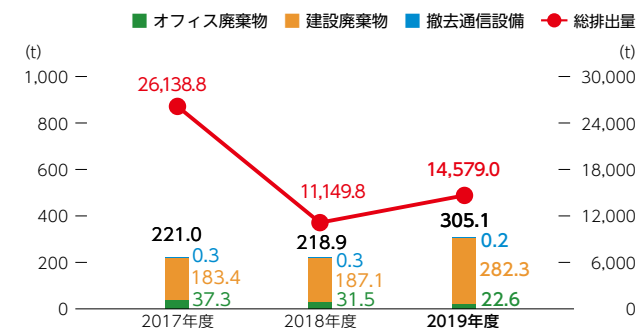
基本的な考え方

循環型社会の実現に貢献するため、環境負荷の低いビジネスモデルの構築はもちろん、リユース・リサイクル率の向上にも日々取り組んでいます。具体的には、「撤去通信設備」「建設廃棄物」「オフィス廃棄物」の3つの分野別にWGを編成し、NTTグループ各社と連携しながら、廃棄物の削減や事業のさまざまな局面でのリデュース・リユース・リサイクルを推進しています。また自社内の取り組みに加え、私たちの知見や技術、ノウハウを活かして循環型社会の実現に貢献します。

2019年度の主な成果と今後

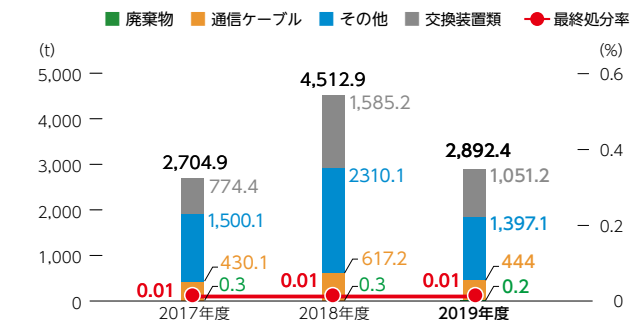
2019年度は、撤去通信設備の最終廃棄量が0.2トン、建設廃棄物の最終廃棄量が282.3トン、オフィス廃棄物の最終廃棄量が22.6トンとなりました。全体の最終廃棄量は前年度比86.2トン増加し305.1トン、総排出量はコンクリート塊を排出する建設工事が増加したため、前年度比3,429.2トン増加し14,579.0トンとなりました。今後も事業活動において、「3R(使用量の削減：リデュース、再使用：リユース、再資源化：リサイクル)」を徹底していきます。

◆ 最終廃棄物量と総排出量



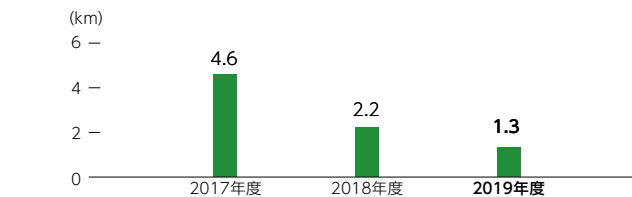
(集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社)
※ 精度向上のため、数値を遡及して修正。

◆ 撤去通信設備の総排出量と最終処分率



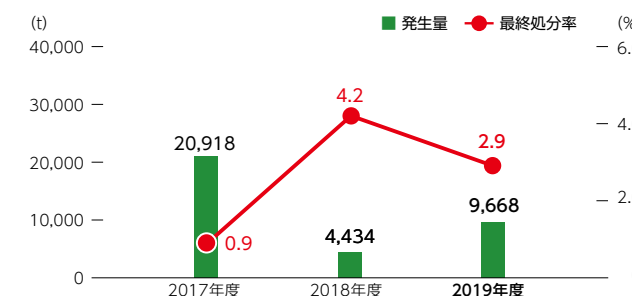
(集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社)
※ 精度向上のため、数値を遡及して修正。

◆ 撤去光ケーブル再利用量



(集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社)

◆ 建設廃棄物の発生量と最終処分率



(集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社)

NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR

社会への貢献

地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン
環境マネジメント
社会が低炭素化している未来
資源が循環している未来
自然と共生している未来
環境汚染の防止

人材の尊重

経営統治の継続的強化

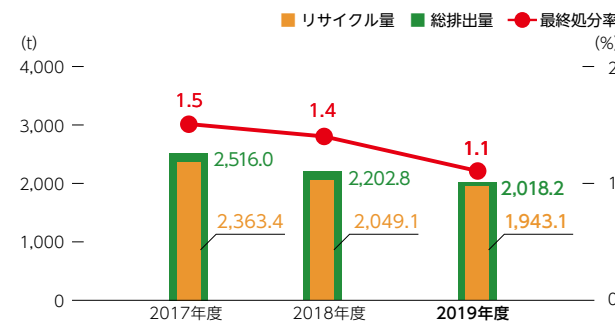
環境負荷の低いビジネスモデルの構築

最終処分率改善に向けた取り組み

リサイクルを徹底したビジネスモデルを構築することは、ICTサービスを提供する企業として重要な責務であると私たちは考えています。この考えに即し、データセンターや通信ビル、オフィスビルでは、リサイクル率を重視した処理業者選定を徹底しています。

処理業者選定にあたっては、事前に決めた評価項目での資格審査を実施し、資格審査合格した処理業者へ処理を委託することで、適正な処理の実施、リサイクル率の向上に取り組んでいます。この結果、2013年度6.1%であったオフィス廃棄物の最終処分率は、2019年度には1.1%まで改善しました。

◆ オフィス廃棄物の総排出量と最終処分率



(集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社)
※ 精度向上のため、数値を遡及して修正。

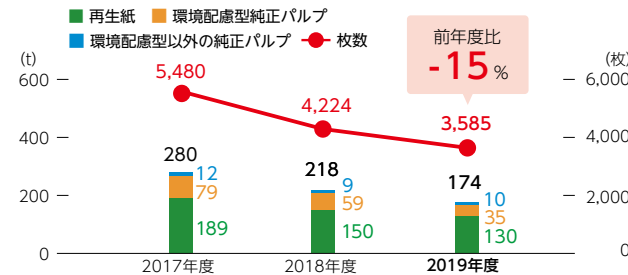
オフィスの3Rの徹底

業務用紙の使用量の削減

NTTコミュニケーションズでは、事務用紙ならびにお客さまへの請求書など、業務用のすべての紙使用量の削減に努めています。事務用紙に関しては、2007年度から正社員一人当たりの紙使用量を指標化し、削減に努めています。

具体的には、ICカード複合機の印刷ログ情報を活用することで、利用枚数の抑制や両面印刷率の向上といった削減努力を推進しています。取り組み状況は個人および組織単位で集計しており、毎月全社員へ公開しています。業務電子化やプロジェクターおよびタブレットを活用したペーパーレス会議、リモート会議なども推進した結果、2019年度の正社員一人当たりの紙使用量(事務用紙A4換算)は、3,585枚となり、2018年度よりさらに減少しました。

◆ 事務用紙の総使用量と正社員一人当たりの事務用紙使用量



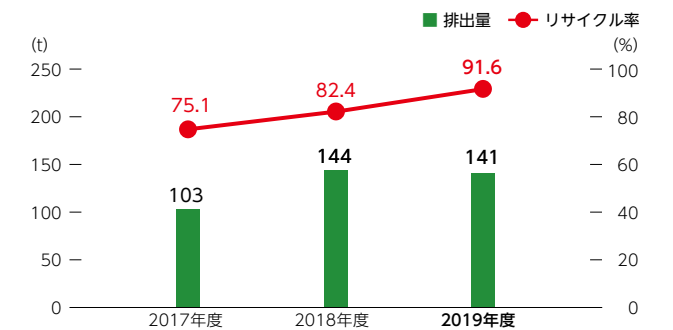
(集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社)
※ 精度向上のため、数値を遡及して修正。

プラスチック問題への対応

海洋プラスチックごみによる環境汚染など、世界的に廃プラスチック問題への関心が高まっています。NTTコミュニケーションズでは「資源が循環している未来」を重点活動項目の1つとして掲げ、プラスチックの排出抑制とリサイクルの推進に取り組んでいます。

オフィスにおけるプラスチックのリサイクル率は年々向上しており、今後も事業活動を通じてプラスチック問題に取り組んでいきます。

◆ プラスチック排出量とリサイクル率の推移(オフィス)





NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR



社会への貢献



地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン
環境マネジメント
社会が低炭素化している未来
資源が循環している未来
自然と共生している未来
環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

重点活動
項目

自然と共生している未来

私たちのアプローチ

生物多様性の保全にあたって、設備の構築から操業、撤去に至る事業活動のすべての局面での配慮を徹底するとともに、取り組み状況の点検や課題を抽出、改善を行いながら活動を推進します。さらに地域保全活動への参画や情報発信といった環境貢献活動も加え、多面的な取り組みを実施していきます。

行動指針に即した活動の展開

私たちは「生物多様性の保全に関する行動指針」を制定し、取り組みを積極的に展開してきました。生物多様性の保全には、世界規模で問題意識が高まっています。今後も、海外拠点も含めたグループ全体で、取り組み状況の点検、課題の抽出、そして改善を推進します。

基本的な考え方

SDGsが目標14および15で、海洋および陸上生物の多様性保全を提唱しているように、近年、持続可能な社会実現のための重要な環境問題として、地球温暖化防止とともに、生態系の保全が大きな課題として論じられています。私たちは、「環境宣言」のテーマの1つに「自然と共生している未来」を設定し、環境保護活動を推進するため「生物多様性の保全に関する行動指針」を制定しました。海外拠点も含めたグループ全体で、行動指針に即した活動を積極的に展開していきます。

生物多様性の保全に関する行動指針

1. 基本方針

〈NTTグループで定める、『NTTグループ 生物多様性
「取り組みの考え方」〉〉

- 事業活動を軸とした展開
あらゆる活動が地球上でつながり生物多様性と関わりが深いことを認識し、事業特性に応じて関係する国内外の活動範囲とその影響を把握し、保全効果が認められる取り組みを推進します。
- 社会への貢献を軸とした展開
事業との関連性にとらわれず広く、生物多様性の保全に向けた取り組みをステークホルダーとともに推進し、その成果を情報公開していきます。

2. 行動方針

- 事業活動における生物多様性保全に配慮した行動を実施
- 事業活動による社会の生物多様性の保全に貢献
- 生物多様性の理解を深め、従業員やその家族、地域とともに自然保護活動を推進

2019年度の主な成果と今後

「生物多様性の保全に関する行動指針」を遵守し、NTTグループで掲げている、環境に配慮した建築物「グリーンビルディング※」の考えにもとづき、設備の構築・維持・改修を行ったほか、ICT企業ならではの取り組みを継続して進めています。NTTレゾナントでは、ポータルサイト「goo」のトップ画面を変更することで、ユーザーが環境保護団体への寄付に参加できる「緑のgoo」を通じて情報発信や啓発活動を行いました。

2019年度も引き続き、ICT企業ならではの貢献力も活かしながら取り組みを推進していきます。

※ グリーンビルディング：エネルギーや水、空調設備などによって天然資源の使用量や廃棄物が少ない環境配慮型建物。

NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR



社会への貢献



地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン
環境マネジメント
社会が低炭素化している未来
資源が循環している未来
自然と共生している未来
環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

データセンターの建設にあたって

＞ 地域の景観・緑化への配慮

地域の緑化に貢献する施設設計も、周辺への生物多様性配慮として大切であると私たちは考えています。

都内最大規模の東京第6データセンターでは、東京都公園協会の「都市緑化基金」の助成のもと、地域密着の緑化活動を推進しています。敷地内の緑地を、春夏ゾーン、秋冬ゾーンの2つに分けて植栽。来訪者は年間を通して花を観賞できます。また、風環境シミュレーションを実施し、風の影響を受ける南西角には常緑樹を配するなど、周辺環境と調和したデータセンターを追求しています。

◆ 春夏ゾーン



◆ 秋冬ゾーン



海底ケーブル敷設にあたって

NTTコミュニケーションズは、海底通信ケーブルネットワークのインフラ構築にあたり、「海洋汚染の防止」を基本方針に掲げ、海洋汚染防止条約をはじめとした環境関連法令を遵守するとともに、海洋生物や漁業との共存を重視して取り組んでいます。

海底ケーブルの敷設・埋設工事や保守業務は、グループ会社であるNTTワールドエンジニアリングマリナが担っており、海洋環境保全への高い意識のもとで事業を展開しています。

＞ 生物多様性の評価

生物多様性の保全への基本方針として、NTTコミュニケーションズは、生物多様性と事業との関わりを把握し、生態系に与える影響をできるだけ小さくするために、生物多様性に配慮した設備の対応やICTを活用した保全活動に取り組み、自然と共生している未来の実現を目指します。生物多様性を将来世代に引き継ぐための取り組みを推進します。具体的には、ケーブル敷設船における生態系保全活動や、無線中継所の建設・撤去時における潜在的な環境影響評価の実施など、生態系への配慮を推進するとともに、ステークホルダーの皆さまと協働した取り組みにも努めます。

＞ 海底ケーブル敷設工事による影響への配慮

海底ケーブルの敷設・埋設工事に際しては、事前に環境アセスメントを実施し、関係官庁や自治体などとも協力しながら綿密にルート設計を行い工事計画を立案しています。例えば浅海部ではサンゴなどの生息エリアは除外した敷設ルートとするなど、海洋環境保全に配慮しています。

また、敷設・埋設工事前には海底面の掃海作業を行う場合があります。なお、掃海作業で引き揚げた漁網やロープ、ワイヤーなどの海底ゴミを敷設船上に回収し、入港後に産業廃棄物として適切に処理しています。

◆ サンゴ礁帯を避けて砂地に敷設



◆ 海底から引き上げられたごみ



NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR



社会への貢献



地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン
環境マネジメント
社会が低炭素化している未来
資源が循環している未来
自然と共生している未来
環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

＞ ケーブル敷設船における生態系保全対策

船の安定性を保つためのバラスト水に含まれる海洋生物は、航海により他海域に排出されることで生態系を破壊する恐れがあります。バラスト水による生態系の破壊を防ぐため、海底ケーブル敷設船「きずな」および「SUBARU」では「バラスト水管理条約※」にもとづき国際海事機関 (IMO) が定めたバラスト水処理装置を搭載して、海洋生物を含まない水を排水するようにしています。

さらに、両敷設船のバラスト水処理装置は化学的殺菌方式を使用せず、環境負荷が低いとされる紫外線殺菌方式です。

また、船体塗装については、有機スズ化合物を含む船底防汚塗料の使用を規制するAFS条約 (船舶の有害な防汚方法の規制に関する国際条約) に適合した塗料を使用しています。

※ バラスト水管理条約：海洋環境へ影響を与える海洋生物の越境移動を防止するためにIMOにより2004年に採択され、2017年9月8日に発効。

中継所の建設・撤去にあたって

データ通信網を支える無線中継所は、丘陵地や島しょ部など自然豊かな地域に立地することがしばしばあり、その運用では生物多様性への配慮を重視しています。

2020年3月31日現在、私たちが所有する無線中継所42カ所のうち8カ所が国立および国定公園内にあります。これらの巡回保守のため道路の敷設が必要な場合には、徹底した法令の遵守および独自の環境アセスメント手法にもとづき建設しています。アセスメントでは建設プロセスに即し配慮すべき点を具体的に設定し、生態系への影響の回避・軽減を多面的に心がけています。

一方、撤去工事においても、建設前の状態に戻すことを基本とし、希少動植物に十分配慮し、地元環境団体・住民の方と協議を行い、地元の土を使用するなど原状の復元に努めています。

また、生物保護の観点から施設を提供する活動も適宜行っています。例えば2012年9月から、毎年、鹿児島県奄美市にあるNTTコミュニケーションズの無線中継所内で、NPO法人「奄美野鳥の会」が、タカ的一种「アカハラダカ」の渡り観察会を実施しています。通常、無線中継所は立入禁止ですが、生態系の状況観測に適した立地であるとの要請を受け、社員立ち会いのもとで行っています。



ICTを活用した生物多様性への貢献

＞ 製品・サービスを通じた貢献

日本の農山村では、イノシシやシカなど野生動物による農林業への被害が深刻化しています。獣害対策の1つとして、わなを設置して野生動物を捕獲する方法が採られています。

NTTPCコミュニケーションズは、屋外センサーが発信するデータを活用する「IoTサービス」の1つとして、鳥獣わな監視通報装置「みまわり楽太郎」を開発し、獣害策に貢献しています。この装置は、NTTドコモ社の通信サービスを利用して、わなが作動すると指定されたアドレスに通知メールを送信する仕組みとなっているため、見回り負担の軽減が実現できます。また、カメラ付きタイプでは捕獲状態を画像で送信できることから、誤って人が入ってしまった場合にも早期に対応できます。同装置は2011年7月の販売開始以来、全国50以上の自治体で採用され、里山の生態系保全に貢献しています。導入事例としては、佐賀

◆ みまわり楽太郎

市様が総務省のICT事業への補助金を活用し、鳥獣被害対策の効率化を実現しています。





NTT Communications Corporation
CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR



社会への貢献



地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン
環境マネジメント
社会が低炭素化している未来
資源が循環している未来
自然と共生している未来
環境汚染の防止



人材の尊重



経営統治の継続的強化

情報発信、啓発活動を通じた貢献

ICT企業ならではの貢献の形として、ネット媒体を通じた情報発信・啓発活動に、社会の期待が高まっています。私たちは、多様なネット媒体を活用した活動を継続し、生物多様性の大切さをお伝えしつつ、幅広い皆さまの行動を促進しています。

＞ 緑のgooの活動

「緑のgoo」とは、サイトの利用を通じて得られた収益の一部を環境・社会保護活動に寄与する団体に寄付する取り組みです。ユーザーは「goo」のトップデザインを「緑のgoo」版に変更することにより、取り組みに参加することができます。また社内で利用推奨していただく「企業パートナー」には、現在、NTTグループをはじめ59社に参加いただいています。2007年8月の開始以来、地球環境保護に取り組むNPOを中心に寄付団体は累計46団体、総額5,712万円を寄付してきました。

NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版
CONTENTS
企業理念
トップコミットメント
企業情報
NTTコミュニケーションズのCSR
社会への貢献
地球環境への貢献
2019年度の活動実績および2020年度目標 基本理念とビジョン 環境マネジメント 社会が低炭素化している未来 資源が循環している未来 自然と共生している未来 環境汚染の防止
人材の尊重
経営統治の継続的強化

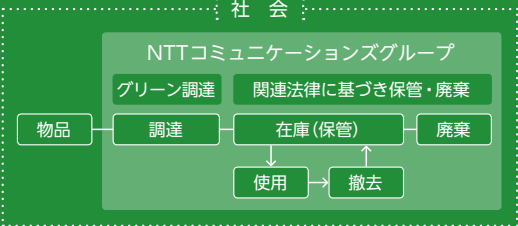
環境汚染の防止

私たちのアプローチ

私たちは、事業活動に起因する環境汚染や有害物質の漏えいなどさまざまな環境リスクの顕在化を防ぐために、低公害車導入の指針策定や、設備や運用方法の改善、管理体制の整備強化や教育・研修などさまざまな施策を講じています。

社会の関心が高まる化学物質の管理体制については、かねてより廃掃法、PCB特措法、電気事業法などにもとづき、統括責任者など各管理者を設置するなど適正に保守部門で管理を実施しています。保管点検についても定期的に実施する一方で、地震や災害などの有事には社長を筆頭に最高経営層も含めた速やかな情報連携を実施する体制を徹底しています。また、環境法令研修では、環境法令の改正内容などを常に把握、各環境WG内で情報の共有を行い、タイムリーに運用の適正化を図っています。

◆ 事業ステージに即した環境汚染の防止に向けた仕組み



基本的な考え方

生産活動や消費活動の結果、さまざまな排出物や廃棄物を生み出しています。その結果自然環境の汚染が進むことが以前から社会課題となっています。

私たちは、SDGs目標12「つくる責任 つかう責任」に象徴されるように、事業活動により発生する廃棄物や排出物の削減や、有害物質の適正管理・処理を行い、環境汚染の防止、安心・安全な社会生活の実現を推進していきます。

2019年度の主な成果と今後

2019年度には、2030年度にEVを100%導入する方針と目標を設定しました。実行面では、継続的に車両台数を見直し、低公害車の導入やエコドライブを推進しました。前年度に比べ、車両台数は約7%、CO₂排出量は21.7%を削減という成果が得られました。この活動により、NO_xの低減において、大きな成果を得ることができました。

PCBについては、計画どおり低濃度PCBは廃棄処理が完了しました。

NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS

企業理念

トップコミットメント

企業情報

NTTコミュニケーションズのCSR

社会への貢献

地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン

環境マネジメント

社会が低炭素化している未来

資源が循環している未来

自然と共生している未来

環境汚染の防止

人材の尊重

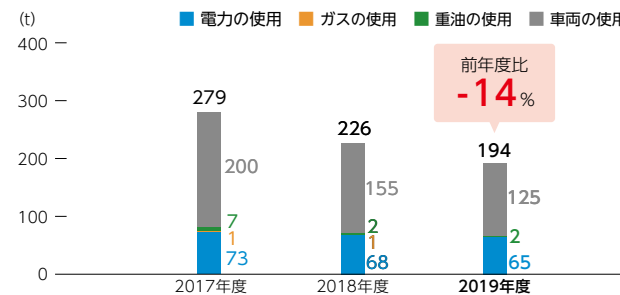
経営統治の継続的強化

環境汚染物質への取り組み

環境汚染物質対策

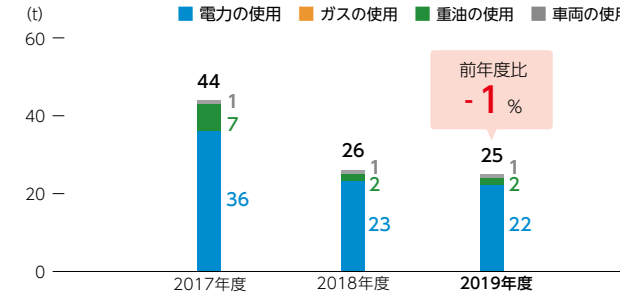
私たちは、事業活動に起因してNOxとSOxの大気汚染物質を排出しています。NOxについては、65%が業務用車両の運行に伴うガソリン・軽油の使用により発生し、残りの35%は、通信ビルなどで使用する電力の発電に伴い発生しています。SOxについては、その大部分(86%)が使用する電力の発電に伴い発生しています。2019年度のNOxおよびSOxの排出量は、いずれも電力使用量の減少により、それぞれ、194トン(前年度比14%減少)と、25トン(前年度比1%減少)となりました。引き続き、エコドライブの推進や車両台数の見直し、事業における電力使用量の削減を進めることで、温暖化対策と合わせて大気汚染の防止を推進します。

◆ NOxの排出量



(集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社)

◆ SOxの排出量



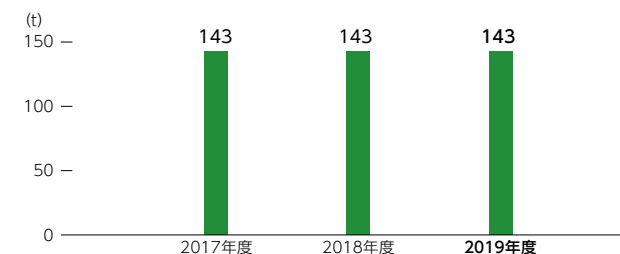
(集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社)

オゾン層破壊物質対策

私たちは、オゾン層破壊物質の適切な処理に取り組んでいます。2019年度に処理した消火設備用特定ハロンガス量は、前年度とほぼ横ばいで143トンでした。

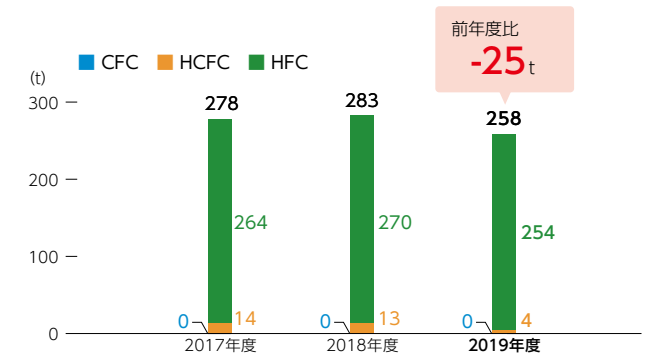
また、2019年度に処理した空調機用特定フロンガス量は、前年度より25トン減の258トンとなりました。

◆ 消火設備用特定ハロンガス量



(集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社)

◆ 空調機用特定フロンガス量



(集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社)

NTT Communications Corporation CSR Report 2020

詳細版

CONTENTS
企業理念
トップコミットメント
企業情報
NTTコミュニケーションズのCSR

社会への貢献

地球環境への貢献

2019年度の活動実績および2020年度目標
基本理念とビジョン
環境マネジメント
社会が低炭素化している未来
資源が循環している未来
自然と共生している未来
環境汚染の防止

人材の尊重

経営統治の継続的強化

アスベスト対策

アスベスト対策では、建物・オフィス関連の取り組みとして、2006年9月に国で定める基準値が見直されたことから、アスベスト吹き付けがなされていた建物を対象にアスベスト浮遊量調査を実施し、基準値以下であることを確認しました。2019年度は、対象4ビルについて、浮遊量調査を実施し、すべて基準値以下であることを確認しました。また、そのうち1ビルについては、可能な箇所のアスベスト撤去工事に着手しました。以降、順次撤去を進めていく予定です。今後も引き続き、対象ビルについては、建設業労働災害防止協会や各自治体が発行しているマニュアルに従い、「除去」「封じ込め」「囲い込み(保管)」などの適切な措置を実施していきます。

◆アスベスト排出量(単位:t)

	2017年度	2018年度	2019年度
アスベスト排出量	0	0	0

(集計範囲：NTTコミュニケーションズおよび国内グループ12社)

PCBの保管・管理

NTTコミュニケーションズでは、電気設備で絶縁材料として使用されていたPCB含有装置の適切な管理を実施しています。PCBの保管に対する方針として、早期の無害化処理およびPCB含有装置継続使用の状況把握・管理方法を定めたガイドラインを制定しています。

2019年度は、兵庫および広島にて保管していた高濃度PCB(安定器)について、無害化処理を完了しました。

◆トランスの保管量(単位:個)

	2017年度	2018年度	2019年度
トランスの保管量	0	0	0

(集計範囲：NTTコミュニケーションズ単体)

◆コンデンサの保管量(単位:個)

		2017年度	2018年度	2019年度
コンデンサの保管量	高圧コンデンサ	0	0	0
	低圧コンデンサ	0	0	0

(集計範囲：NTTコミュニケーションズ単体)

◆安定器の保管量(単位:個)

	2017年度	2018年度	2019年度
安定器の保管量	1,480	1,488	123

(集計範囲：NTTコミュニケーションズ単体)

有事に備えた化学物質管理

近年、自然災害が世界規模で多発していることなどを背景に、有事を想定した環境汚染物質の管理体制について社会の関心が高まっています。私たちは、ITインフラを所有・運用する事業者として、かねてより「万一」を念頭においた保管・管理体制を徹底してきました。汚染物質、特にPCBの管理においては、耐震、防火、水防、

避雷、耐浸透、換気、セキュリティなどに留意した管理を実施。定期的な点検を通じ、適正に管理されていることを常日頃より確認しています。さらに、大規模な地震や災害などの有事に対しては、災害発生時の損害の防止のみならず二次災害の防止の観点も踏まえ、迅速な確認体制を構築。安心・安全に向けた不断の運用を心がけています。

◆PCB保管場所



◆PCB保管状況



重大漏出事故

2019年度、NTTコミュニケーションズグループにおいて、重大な漏出事故はありませんでした。

有害廃棄物の輸送、輸入、輸出状況

PCBについては、早期無害化処理を行う方針のもと処理計画を策定し、2014年度に九州・北海道保管分、2016年度に東京保管分、そして、2019年度には、残りの大阪保管分の無害化処理を実施し、保管分の処理が完了しました。